

令和5年度 学校自己評価（12月）

○全25項目中、「肯定的な意見」の平均値は生徒が86%、保護者が84%、教職員が88%であり、三者平均は86%（昨年89%）で、総合的にはまずまずの評価と考える。

○ほとんどの項目で、三者平均が80%を超えていた。そのうち90%を超えた項目は11項目あった。特に、95%を超えたのは以下の5つの項目である。

項目9「あいさつの励行や時間・服装のけじめ等、基本的生活習慣の育成を目指した指導を適切に行っている。」

項目10「きまりの意義を理解し、遵守する姿勢や、公共心の育成をめざした指導を適切におこなっている。」

項目12「保護者との連絡や相談に対して適切に対応している。」

項目17「学校のような活動の中で、責任感や奉仕の心の育成をめざした指導を適切に行っている。」

項目18「子どもが感謝や思いやりの心を身につけるための指導を適切に行っている。」

特に項目9・10・12・17については、昨年度から三者とも90%を超えており、本校における強みであると考えます。服装などの基本的生活習慣の育成、きまりを守ることの大切さ、責任感を持って仕事をするなど、教職員が生徒と関わる中で常に意識していることである。実際、授業中はもちろん、給食時間、休憩時間、掃除時間、部活動など学校生活全般において指導している。本校には、すべての教職員で全校生徒を指導していくという方針であり雰囲気がある。また項目12については、保護者との連携において何かあれば保護者に連絡、相談するという体制が整っている。この強みは、他校にも誇れる内容である。今後も継続して取り組んでいきたい。また、項目22「こどもの服装や身だしなみはきちんと整っている。」についても、三者平均が95%は超えていないものの、昨年度・今年度とも三者が90%を超えている。基本的生活習慣はできていると感じている生徒・保護者・教職員は多いようだ。教職員からの指導や声かけなども大切であるが、生徒自らが考えて、よりよい学校生活を送れるように、委員会などの生徒会の活動などをさらに充実させ、生徒同士の関係性を高めていきたい。

●特に本年度の課題であり、今回も向上しなかった項目は、次の項目である。

項目4「宿題・予習・復習など家庭学習はきちんと取り組んでいる。子どもの家庭学習の習慣化を図っている」
三者平均75%（昨年81%）

保護者は77%（昨年72%）、生徒は61%（昨年71%）、教職員が89%（昨年100%）と、生徒・教職員の数値が下がっている。近年の学校評価アンケートの結果も良くなく、本校のここ数年来の課題でもある。テレビやスマホ等メディアの使用時間も多くなっている傾向もあり対策が必要である。まずは、タイムマネジメントの力を身につけさせる必要がある。家に帰ってからの時間の使い方を考える必要がある。家庭学習の習慣化を目指すとともに、授業改善に取り組み、予習→授業→復習のサイクルで学習の定着を図っていききたい。主体的に学習ができる環境づくりについても考えていきたい。また、家庭学習の習慣化については、保護者の協力も必要であるので、保護者に対しての啓発活動を行っていききたい。

項目23「テレビやゲーム・スマートフォンなどを家庭でルールを決めて使っている。（家庭でのメディア利用について啓発活動ができている。）」

三者平均67%（昨年67%）

保護者は48%（昨年48%）、生徒は72%（昨年68%）、教職員は80%（昨年86%）であった。昨年度同様、依然低い数字である。昨年度から、本格的にタブレットの持ち帰りを実施しているが、今後も継続して家庭での上手なメディアの利用の仕方について指導していく必要がある。メディア使用のルールについて、生徒一人一人に考えさせることが必要である。特に保護者の数字が低いということで、ご家庭でも困られている現状が伺える。生徒はもちろんであるが、保護者に対しても情報モラルについて考える機会を提供していく必要がある。家庭での時間を有意義に使える生徒を育成していきたい。

●生徒に意識させたい項目

項目26（3）「進取の気質を持ち、果敢に挑戦する生徒が育っている。」

三者平均67%（昨年76%）

保護者は78%（昨年77%）、生徒は78%（昨年82%）、教職員は45%（昨年69%）と、下降傾向である。特に、教職員の数字が低い。与えられた仕事はきちんとできるが、自ら進んで挑戦していくことに対する弱さがある。特に教職員がそう感じているので、生徒に任せて、いろいろなことに挑戦できる環境を整えていきたい。